

.....編集後記.....

◆6-7月号の兵庫県南部地震特集では、企画構成・原稿依頼などで、執筆者を含む以下の方々からご支援いただいた(アルファベット順、敬称略)。

橋本 学*・服部 仁・石橋克彦・磯部一洋*・
桂 忠彦・小林洋二・小出 仁・楠瀬勤一郎・
小川克郎・瀬野徹三・多田 堯・吉田明夫*

上記*印の方からは原稿査読でもご協力いただいた。以上の皆様に厚くお礼申し上げる次第である。

◆多忙にもかかわらず本特集に寄稿された皆様にもお礼申し上げます。紙面の制約などで後送りになった稿もある。機会を改めて掲載していきたい。

◆本特集では、理学から工学にわたる多方面から今回の震災をとらえるよう試みた。しかし、我々の力不足もあって、いくつかの側面が欠けている。特に地盤災害や土木構造物の被害についての稿が含まれていないのは残念である。読者の中には、政府や地方自治体の地震予知や防災計画の現状についての解説を望む声もあるかも知れない。我々としても、地震災害軽減のための研究や施策は今後どうあるべきかという点に的を絞った第3の特集が必要だと考えている。こうした課題をこれからも取り上げていきたい。今回は兵庫県南部地震による災害から学ぶという面を中心としている。本特集が今後の研究計画や対策の立案に役立つことを願うとともに、読者の皆様からご批判ご意見をいただければ幸いである。

◆この特集は地震から3カ月余り経過した時点での情報を基にしている。被災地ではその後も調査が継続されており、新しい知見も得られているだろう。どの時点の稿であるかを記録するためにも、本

特集では受付と受理の日付を明記した。

◆震災に関する特集の企画編集は、私にとって1990年8月号(432号)の『地震と地盤』に次いで2度目である。ロマブリータ地震を取り上げた前回の特集と比べると、物理的な負担は似ているが、震災が身近で規模もはるかに大きいだけに、気持ちの上ではかなり違った。迷った末、口絵は図面を中心に構成することにした(7月号は規定の頁数を超えているので、口絵を割愛)。被災状況の写真は、新聞や週刊誌を通じてすでに広く出回っていることももうひとつの理由である。寄稿者の多くが、現地調査の写真撮影で“負目”を感じたと語ってくれた。被災された皆様のご理解をお願いするばかりである。

◆多数の被災者がまだ避難生活を続けている5月28日(現地時間)、サハリン北部の地震でまた多くの任人が犠牲になった。2-3の方に解説をお願いし、現地調査に出かける直前の瀬野徹三氏からいただいた稿を緊急寄稿として本号に含めた。瀬野氏に厚くお礼申し上げます。

(佐藤 興平 記)

◆小誌も含め、マスコミなどによる情報の伝達は非可逆的な反応を生む。最近、稀ではあるが観光バスが被災地に乗り入れ、生活者に不必要かつ無遠慮なストレスを与えているという。我・汝・彼という関係でなく、内・外の関係の濃厚な我々の文化も震災は検証している。いま必要なことは、(疑似)体験化ではなく、経験化であろう。小誌の特集が少しでもこれに役立てれば幸いである。

(宮崎 光旗 記)

地質ニュース編集委員会

委員長：加藤碩一

副委員長：佐藤興平

幹事：宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員：今井 登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・

野田徹郎・吉井守正・豊 遙秋・佐藤岱生

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(山崎 浩・清水真寿美)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地 質 ニ ュ ー ス	第490号 1995年 6 月号
	定価 ￥770 千 実 費
1995年6月1日 発行	
編 集	工業技術院地質調査所
発 行人	株式会社 実業公報社
	代表者 林 光 生
発 行 所	株式会社 実業公報社
	東京都千代田区九段北1の7の8
	Tel. (03)3265-0951 (代表) 〒102
	振替口座 00110-6-32466
	麹町局私書箱第21号
印 刷	小宮山印刷工業株式会社

©1995 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の設が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。